

第10回 北児島ケアネットシンポジウム

平成31年3月7日(木)

14時～16時

参加者：90名

(内訳

専門職 45名

地域 45名

『運転免許返納とその後の地域での生活について』

1. 開会挨拶 (北児島医師会 会長 庵谷 和夫)

14:05～

2. シンポジウム

①岡山県警本部 交通部運転免許課

適正指導係で安全な運転について 家族の方から運転適性に関する相談を受けたり、75歳以上の方は認知機能検査を受けて記憶力や判断力が低下した場合の診断書の提出に関する相談などを受けつけている。

岡山県運転免許保有者数 (平成30年12月末)

129万人 (男性68万人 女性61万人) 人口に対する保有率67% (1.5人に1人の割合)

65歳以上 33万人 (26%) 保有者4人に1人の割合 (この1年で 6400人増加)

事故統計 総事故件数 約57000件 死亡者68名 (人身事故は大幅に減少)

75才以上 H30基準で9年前から1.4倍 死者数38名 (68名中)

認知症と診断された時の流れ

運転免許センターより郵送で「診断書」提出の指示 発送日より3か月以内の提出
先生の診断結果が認知症であると、運転免許停止や取り消し、となる。

認知症の疑いであれば継続可能。(疑いの場合、MCIで経過観察が必要な時は6か月後に診断書を再提出)

3か月を経過すると免許センターへの返納が出来ない。

3か月内に免許返納の場合、運転経歴証明書交付や、おかやま愛♡カードの交付申請ができる。(現在5万人を超えるカードの交付あり)

認知症と診断されて免許取消となった時、その後の生活支援等の要望があれば、各住所地の地域包括支援センターへ連絡するような流れとなっている。

75才未満は認知症検査はない。

免許の自主返納について

高齢者で身体・認知機能の低下によって、運転免許証を自主返納するときは各住所地の運転免許センターへ自主返納するようになっている。

年々、自主返納の数は増えている。10年前と比較して17倍。

②岡山県警本部 交通部運転免許課

H29,3月~大きな道路交通法の改正があり、高齢者の相談が増える・認知症で返納の相談が増えるだろうとの見込みから各県で免許センターに医療職が配置されている。

相談内容

- 本人からの相談は少ない。ご家族からの相談が非常に多い。物忘れが気になって運転をやめてほしいが話を聞いてくれない。
- 認知症機能検査を受けて、49点以下の方はそれをきっかけとして返納する方が多い。
- 認知機能検査を受ける案内がきたのをきっかけに自主返納を決めた方も多い。
- 家族から説得されて返納した方も多い。

担当として

- 日頃から日常の中で少しずつ高齢と免許返納について話をしている家族ほど自主返納につながるケースが多い印象がある。
- 運転免許は一生ものでなく、いつかどこかで返納するものとして認識をしていただくような話を進めていくべき。
- 返納後の生活について支援内容を日頃から考えていくことが重要。

③岡山市ふれあい公社 地域包括支援課

南区 25.8%の高齢化率（建部は50%↑）

認知症 中核症状と周辺症状、BPSD(行動心理症状)について

新オレンジプラン 65歳未満の若年性認知症についての支援を重点化

岡山市では、認知症初期集中支援チームと認知症地域支援推進員が地域と連携を図って認知症になっても地域で生活しやすい環境づくりをしている。

初期集中支援チームでは6か月を目途に介入 月2回のアドバイス会議

地域支援推進員は物忘れ相談会やサポートリーダー養成講座、認知症カフェの開催など実

施（南区西地区では4か所）

事例

79才男性 妻と二人暮らし 気難しく頑固 ある日事故（駐車場で）を起こしたことをきっかけに娘からの相談。2年前に認知症の診断あり

この事故をきっかけに警察官警察から返納するよう言われるかと家族は期待していたがそこまで至らず。どうすればいいかと相談あり。認知機能の明らかな変化なし。主治医へ相談しても、家族との問題のすれ違いなどがあり運転免許の返納につながらなかった。

免許更新時に認知機能検査が43点 3か月期限の診断書の郵送有り、本人混乱し、そのままになり主治医からの診断書をもらわずそのままになったので免許取り消しの通知が来てさらに困惑し、家族への不満が多くなった。本人あちこちへ電話をかけて、運転免許センターへ行ったら警察へ行けと言われる状況となり、自主返納もできなかった。

○現在の認知症の状態を診断してもらうことが大切。

○信頼関係が作れている主治医からの勧めであれば本人の気持ちも変わりやすい。

○認知症専門医への受診はかかりつけ医からの紹介状が必要。

○専門医への受診時は家族の同行と日常の様子を報告することが必要。本人の前で言いにくいことはメモで渡すなど工夫をしましょう。

○主治医へ日常の相談をするときに、運転の不安などを口に出してもらおうと主治医からのその話を進めやすい。

免許を返納後、

困ることは・・・

買い物（とくし丸天満屋・配食サービス）

交通（福祉有床車両・乗り合いタクシー）

通うところ（サロン・老人クラブ・ふれあいセンター・介護予防教室等）

（感想） ふれあい公社が関わってもうまくいかないケースがある。

④迫川地区生活交通を考える会

奥迫川・迫川・茂曾路の岡山市でも一番小さい連合学区

760世帯 1800程度 高齢化率55%（奥迫川）小学生ゼロ！ 35%（迫川・茂曾路）

2012岡山市からの相談もあり、生活交通の話を進めた。（2018、4月～

移動に関するアンケートで困ることを聞き取り⇒市からデマンド型交通（路線不定期運行・区域運行）の提案あり⇒検討・運用体制 ⇒ ブンタク 3年間は市の補助

収益率は30% 稼働率が難しい。

1コイン500円で設定したが、運行サービスの対価が2600円（1便）で650円となった。

利用者の希望をアンケートで確認

- 1、料金を下げてほしい
- 2、行先を拡大してほしい
- 3、便数を増やしてほしい 等々多い

問題点

電話予約が面倒（午前便は前日までに予約が必要）

運行日（週3回(月・火・金)と利用希望日が合わない

料金を安くしてほしい 650⇒500（1人） 4人で200円

行先が限られている。

目標

継続

迫川だけでなくより拡大を

ケア会議から地域の生活を支える「おせっかい」を4月からスタート

おせっかい通信を発行

15:50～

3. 次回の予定（西崎）

★第11回 シンポジウム

テーマ：『防災について』（仮）

日 時：平成31年6月6日(木)14時00分～

場 所：ウェルポートなださき かしの木ホール

15:55～

4. 閉会挨拶（北児島医師会 理事 渡邊 清一郎）